

## Into my Packet



後藤滋樹の

## 新・社会楽

後藤滋樹  
goto@goto.info.waseda.ac.jp  
早稲田大学 理工学部 情報学科

## 第56回「ドメイン名に中国語」

## 【押し寄せる多言語の波】

少し前まで、電子メールの件名 (subject) を日本語で書くことは推奨されなかった。それがいつの間にか件名に日本語を多用するようになってきている。ところで、日本では電子メールの中身も、ウェブのページも日本語で書いてあることが多い。しかし依然として電子メールの宛先やウェブサイトのURLは、いまだにASCIIコードつまり英文字で書かれている。

その電子メールの宛先、URLの構成要素として重要なのがドメイン名だ。つまりwaseda.ac.jpというような表現のことである。これをたとえば「早稲田.大学.日本」と書けるようにしようという提案がある。

## 【無視できない中国語】

ドメイン名に多言語を導入する提案はシンガポールが熱心である。これをiDNSつまりDNSの国際化と言う。日本では、これに関する従来の活動は少なかったが、現在ではJPNICにiDNSの対応チームが設けられて、評価実験に参加している。

iDNSの実験に参加しているなかでは台湾の計画が興味深い。台湾では1999年つまり今年中に小中高校の全校をインターネットに接続する予定だ。その学校の名前のドメイン名を中国語にする計画だという。小さな子供はアルファベットを知らないから、ぜひ中国語で進めたいそうだ。

シンガポールは4つの公用語を持つ。つまり英語、中国語、マレー語、タミル語である。言語の問題、特に英語以外の言語についての関心が高い。シンガポールの提案も含めて、これまでの活動の紹介がウェブサイトに記述されている 。

## 【もちろん日本も韓国も】

韓国もさっそく呼応し、ハングルの表記をドメイン名に使うことを提案している。iDNSの実験に参加している各国関係者の間には日本語に通じている人も多く、日本語の例題も考えてくれるのはありがたい。さらにタイも実験に参加している。私はタイ文字をほとんど覚えていないので、残念ながら理解に限度がある。

このような活動では、メールの上での議論も多言語にわたる話題となる。中国語の単語の話をローマ字表記 (ピンイン) で論じるのは、あまりわかりやすいとは言えない。日本人は漢字を読めるのだから、字を見せてもらったほうが早い。結局、メールの本体の表記も多言語でできたほうが効率が良いと感じる。

## 【欧米では読めない】

確かに、ドメイン名を中国語で書くのは台湾の小学生には適しているかもしれない。ただし、そのドメイン名を中国語の漢字として読めるのは、画面の上、あるいはプリンターに漢字のフォントを持っているマシンだけである。

これは電子メールのsubjectのときと同じ問題を抱える。subjectがISO-2022-JPでエンコードされているとき、それを正しく画面に表示するためには、日本語のフォントが必要だ。同様に中国語のドメイン名は欧米の人には読めない。これには欧米勢力から文句が出るかもしれない。ただし子細に見れば、欧州の中にも多数の言語があり、英語が万能というわけではないから、歩調をそろえてくれる可能性がある。



## 【ユニコードか】

日本のインターネットの関係者の中では、これまでユニコードの評価が高いとは言えなかった。ユニコードは割り切った作りのようである。しかし上のiDNSの提案ではUTF-5というユニコードの体系を使っている。もちろん、まだ規格として決まったわけではなく、実験は進行中である。

文字コードについては各国ごとの独自体系を認めようという動きも当然出ている。自動的に変換すればいいという提案もある。

私自身の感想としては、このiDNSの話によって、多言語を同じページの中で併存して使うような必要性が出てきたと思っている。そうなるとユニコードの利点もあるのかと思いはじめた。

## 【全角と半角、住所の順番】

ドメイン名の国際化は、wasedaを早稲田と書けば終わりのように思うかもしれない。ところがドット(.)の問題がある。ドメイン名はドットで区切られている。そのドットとは英文字つまり半角である。早稲田.大学.日本と書くときには、ドットも全角で書いたほうが早い。しかし全角のドットと半角のドットとは異なる文字である。これを同一視すべきであろうか。

また、英語の住所の表記では、「3-4-1 Ohkubo, Shinjuku, Tokyo」のように狭い範囲から広げて書く。日本語では「東京都新宿区大久保3-4-1」と広い範囲から狭める。

現在のドメイン名はjpが末尾にくるから米国式である。せっかく日本語でドメイン名を表示するならば、順番も和式にしたいという意見も出ている。

 www.idns.org

Illustration: Harada Kaori



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)